

## 袋物講座 (1)

とっくりとか鶴首とか、首が細くて胴体が膨らんでいるものを、「袋物」と言います。これは一般的に難しいとされていて、これができたら、一人前ね。小さめの丸いものを作れば、一輪挿しとしてかわいくできます。唐津風、備前風、備前で火襷、信楽風、黒土、いろいろできますよ。

朝鮮唐津風  
(唐津土、赤土)



白化粧で粉引  
(赤土)



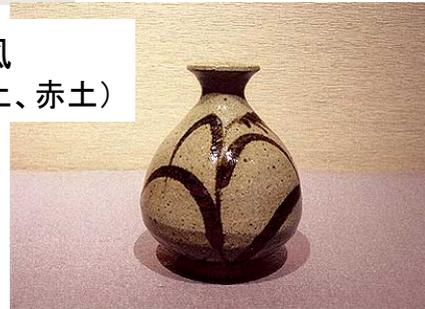
黄瀬戸  
(織部土)



備前風  
(備前土炭化)



唐津風  
(唐津土、赤土)



①



玉造りで作りましょう。500～700gの土を2周目程度、底の厚さは1cmで、底の仕上げをします。ビアマグと同じ作り方です。

②



底を仕上げたら、仕上げた内側の円に沿うように、外側を縮めます。巻き込む感じで、2周弱まで持っていく、マッシュルームみたいな外観になります。

③



丁寧に、下からキョンシーで伸ばしていきましょう。土を半分位使ったところ、6、7cm伸ばしたら、いつも通り、内側コテ、外側コテ、スポンジをかけて仕上げていきます。丁寧にね。

④



下半分ができた状態ですから、上に残った土を伸ばしていきましょう。全部伸ばしきると、12、3cmになります。

## 袋物講座 (2)

⑤



内側、外側コテとスポンジをかけます。  
ビアマグを作るのと同じです。

⑥



口の高低差が大きい場合は、一度切りましょう。  
それほどでもなければ、そのまま口を寄せて、  
すぼめていきます。

⑦



柄コテが入るくらいまで、口をすぼめたら、  
寄せてできたシワをなでてなくします。  
同時に、厚いところ、うすいところがないように  
確認しましょう。

⑧



シワを伸ばしたら、上下のコテがけをします。  
内側はもうできません。  
その後、スポンジをあて、なめらかにすると同時に、  
少しまたすぼめます。

⑨



口を切って、なめし皮をかけましょう。  
牛乳瓶みたいな感じになります。  
口は少し外に向けたほうが、すぼめるときに、  
ひっかかりがあって、やりやすいです。

⑩



人差し指と、親指に水を付け、ゆっくりとすぼめて  
いきます。(写真は片手ですが、本来は両手)  
柄コテがぎりぎり入るくらいまで、すぼめましょう。

⑪



柄コテを入れ、下からふくらませていきます。  
できれば、ろくろを回転させるときは、器の内側  
で、柄コテを壁から離しましょう。そうすると、  
ブレにくくなります。

⑫



好みの形になったら、外側から、コテをあて、  
形を整えます。口も揃えて、できあがり！